

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 2科目150分

## 解答形式

記述, 論述, 選択, 描図

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

大問数は例年通り3題であり、全体の論述量は昨年とあまり変わらなかったが、問題文の分量や設問数がやや増加したため、全体としての分量は昨年よりやや増加した。また、昨年よりも細かい知識を要求する問題や、難度の高い考察問題が増加しており、難易度はやや難化したと考えられる。

## 出題の特徴と昨年との変更点

出題の多くは考察問題であるが、生物学用語の穴埋めや文章選択型の知識問題も出題される。例年、指定行数が1～3行程度の論述問題が多い。

昨年は出題されていない描図問題が出題された。

## その他トピックス

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関する出題があった。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	記述 論述 選択	遺伝子 生殖	生物 基礎 ・ 生物	D 姉妹染色分体が存在し、染色体の凝縮が起こっていない時期を選ぶと考えられる。	やや難
第2問	記述 論述 選択 描図	細胞 植物の反応 代謝	生物 基礎 ・ 生物	F 果実の半分を切除した個体では、翌年の着花数が2/3切除の場合と1/3切除の場合のおよそ中間の値になると考える。	やや難
第3問	記述 選択	免疫 遺伝子 タンパク質	生物 基礎 ・ 生物	A ABO式血液型の抗原に対する抗体の産生のしくみについては諸説ある。 C グリシンとアラニンとセリンは、いずれも側鎖の大きさが比較的小さいアミノ酸である。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

- ・教科書レベルの基本的な知識を身につけ、その内容を正確に論述できるように練習を重ねよう。
- ・普段の学習から、丸暗記ではなく論理的に考える癖をつけよう。
- ・過去問などの演習を通して、東大型の問題に慣れておこう。
- ・生物学の最新のトピックスに関心を持ち、生物学的な内容を扱ったニュースなどにも目を通しておこう。